

はじめに

ご入学おめでとうございます。

お子さんにアレルギー疾患があると、給食のこと、学校内生活のこと、校外学習のこと等いろいろとご心配のことでしょう。

保育園や幼稚園では、保育士や教員がお子さんのサポートをしてくださっていたことと思いますが、小学校は教育の場ですので、基本的には、「自分のことは自分です」自主性を育てる場でもあります。

従って、アレルギー疾患があっても、お子さんが自分のからだについて理解し、お友達や先生に説明をしたり、自分のことは自分でできることを目標に、入学準備を進めましょう。

お子さんを受け入れる学校の教員側も不安があります。とくに新学期は担任の先生をはじめ学校側は大変多忙になります。

お子さんのアレルギー疾患について、正しい情報を学校に伝え、緊急時も含めて的確な対応をしていただけるよう必要最小限のお願いをしましょう。

そのために、このマニュアルをご活用ください。

〈名古屋市内患者会・入学準備検討委員会作成 平成26年 3月〉

まず準備すること

現在のアレルギー症状の有無、程度の確認のためアレルギー専門医のいる医療機関を受診する（入学1年～半年前）

疑わしい食品の血液検査の実施



食物経口負荷試験を実施

負荷試験でわかること

閾値(限界量)の確認 → 症状の出る量
 症状が出るまでの時間・症状進行のスピード
 発症したアレルギー反応の詳細
 投与すべき薬剤の種類・タイミング、エピペンのタイミング
 その後の経過 → 症状消失までの時間
 反復(症状が繰り返されるか)の有無

負荷試験の結果からわかること

現在食べられる量(現在すべき除去の程度)
 コンタミや混入のリスク
 必要な給食対応

※入学までに喘息についても確認しておく（喘息症状の既往がある場合は、発作時の手順を主治医と確認しておきましょう）

1 就学時健診

10月頃

医師による就学前の健診

内科検診、個別相談の際に「アレルギーがある」と申告する

→就学時健診の医師は校医であり専門医ではないので、アレルギーに関することはここでは詳しく話す必要はありません

今後、どのように話し合いを進めていけば良いかを相談しましょう

2 入学説明会

2月頃

面談の申し込み※

教頭・栄養指導教諭・養護教諭に簡単に挨拶

→今後入学するまでは、この先生方と面談をしていくことになります(注:4月に異動する可能性もあり)

※入学される学校により入学前または入学後など面談の時期は様々です。

学校側に準備があれば、ここで書類をもらい、面談時に提出できるように準備を進めましょう。 ⇒ 3 準備するもの

3 準備するもの

【提出物】

学校から提出を求められるもの

食物アレルギー対応給食の実施にかかわる調査票
学校生活管理指導表
食物アレルギー対応給食申請書(新規・継続用・変更用のいずれか)
食物アレルギーの経過報告書

保護者が準備して提出するもの

アレルギーについてのお願い
アレルギー対応のまとめ・保護者からのお願い

アレルギー症状

負荷試験の結果、または最近のアレルギー症状の既往
運動誘発のアレルギー症状の既往

緊急時対応

発作時の対応手順について、主治医と相談しておく
緊急連絡先の優先順位 救急搬送先のお願い

薬剤・エピペンの保管場所・投与方法

内服薬・吸入薬・外用薬・エピペンの保存・使用・投与方法を主治医と確認しておく

給食のアレルギー対応

※「学校給食のアレルギー対応を希望される保護者のみなさまへ」参照

アレルギーの対応(除去食・単品の除去・副食の除去・副食の一部取り除き・完全弁当持参)について主治医と相談しておく
→給食対応を受けている間は定期的に医師の診断を受ける

学校生活上の留意点、保護者の要望等

給食当番、食べ物を扱う授業等、遠足など考慮してほしいこと
保護者から学校へお願いしたいこと

4 入学直後にすること

入学式～給食開始前・または希望があれば入学前に面談を申し込む

面談(顔合わせ) 担任は入学式当日までわかりません ⇒ 5 面談の方法

書類の提出 ⇒ 3 準備するもの

クラスメイトへの説明のお願い

→弁当持参や給食当番など、クラスメイトと異なることで疎外感を感じたり、いじめにあつたりすることのないよう
担任の先生よりクラスメイトへの説明をお願いする

食物アレルギーが好き嫌いや偏食とは異なることを絵本などを使って読み聞かせていただき、正しく理解してもらいたいこと

食物アレルギーで食べられない(触れない)ものがあるが、それ以外のことは何でもできること

間違つて食べて症状が出ることがないように、クラスみんなで気をつけてほしいこと

5 面談の方法

学級担任・教頭・養護教諭・栄養指導教諭と話し合い、情報の共有をお願いする

■ 患者会からのアドバイス ■

面談にはお母さんだけでなく、時にはお父さんにも同行してもらいましょう。

先生方には要望を相談させていただき、「希望・提案」という形で伝えてみてください。最終決定は学校側にしてもらおうと先生方の負担がかなり軽減します。

お子さんができるだけみんなと同じ生活ができるように、先生方と協力し合い、疑問や質問があればその都度解決できる信頼関係を築くことが大切です。

「自分のことは自分です」ことは基本ですが、状況によりできない場合は補助して下さるようお願いし、手助けをしていただきましょう。

学校・保護者・医療機関が連携し、食物アレルギーを持つ多くのお子さんが学校生活を笑顔で楽しく過ごせることを願っています。

6 進級するとき

新学年度ごとに書類を提出 ⇒ 3 準備するもの 面談(新しい担任との再確認) ⇒ 5 面談の方法